

教育長3期就任のあいさつ

6月25日、3期目となる畠山熙一郎教育長が就任しました。



教育長 畠山熙一郎

この度、町長からの辞令書を頂いて引き続き浪江町教育長の任に当たることになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。また、平成20年6月の初めての教育長就任以来、これまで実に様々なことがありましたが、その都度、多くの皆さま方に支えていただけてまいりました。改めて心からの感謝を申し上げます。

顧みますと、平成23年3月の大災害は多くの被災者の皆さまと同様、私にとっても大きな試練となりました。教育行政は学校教育、生涯学習、文化・スポーツ、文化財保護などと幅広い分野に及びますが、被災後の私が最も気掛かりにし、何とかしたいと取り組んだのは浪江町の子どもたちの教育のことです。

現在、浪江町の小・中学校9校の内の6校が臨時休業のまま、避難先での再開を果たした小・中学校3校で学ぶのはわずかに28名に過ぎません。これまでの状況判断や対応に自らの力不足を痛感する一方で、少人数ながらも健気な頑張りを見せる小・中学生の姿や、そのような子どもたちに笑顔で接する町民の方々を目にするにつけ、子どもたちの教育を充実させることが全ての基本になるとの認識を深めております。過去と現在を踏まえ、将来を見据えながら、子どもたちの成長が町づくりにも生きるような浪江町の教育復興を目指し、その道筋を付けるために微力を尽くしたいと思っております。

浪江町の教育は未曾有の災害から抜け出て、辛く厳しい経験を生かしながら明るい未来を切り拓く段階に入りつつあります。樂觀は許されませんが希望を持って取り組むことが大切と考えております。皆さま方のご理解とご支援を重ねてお願い申し上げます。

教育の話題

帰還後、子どもたちはこんな学校で

浪江町への帰還後の学校については、放射線量が比較的低く、周辺環境が早く整い、施設整備や通学面でも条件の良い浪江東中学校の場所を選んで、安全を第一に再開に向けた準備を進めています。

浪江東中学校校舎は、主に2階は小学生、3階は中学生の場としながら、小・中学生一緒のランチルーム、図書室とコンピュータ室を組み合わせたメディアルーム、小・中の先生が連携を取りやすい職員室など、全面的に改修します。それに加え、保護者の働いている状況に関わりなく0～5歳児の教育と保育を一体的に行う「認定こども園」を校地内に新設して、幼児から小・中学生までが交流や学びを一緒にできるようにします。

また、帰還当初は少人数での教育となることが予想されます。一人一人に寄り添いながらきめ細かな指導援助ができる体制を整え、地域の人々にも幅広く参加していただいて浪江町の子どもを皆で見守り育てる活動を進めます。

「学校でつながる」セカンドスクール構想

現在、浪江町立学校長会と教育委員会が共同して「セカンドスクール」を立ち上げる準備をしています。

セカンドスクール（区域外就学などで実際に通学する学校とは別の第2の学校）は、情報機器等（町や学校のホームページ、タブレット端末アプリなど）を用いて仮想の学校を立ち上げて、その学校を介して各地に分散している浪江町の子どもたちや保護者、町民等を結び付ける仕組みです。構想が具体化しましたら改めてセカンドスクールへの参加についてご案内をします。

また、その関連事業として秋には「2016あつまれ二本松へ！浪江町子ども体験プロジェクト（仮称）」を計画していますので、合わせてどうぞよろしくお願い致します。